

学校保健との連携による健康教育の取組み

思春期保健講座並びに喫煙予防教育の試み

研究報告者 荒木 勝恵*

研究協力者

渡会 洋子 , 田中多鶴子 , 今野 逸子 , 中條 貞子

上林 幸 , 竹内 公子 , 渡部 美紀 , 小林 キヌ

鈴木 伊作 , 阿部 啓二*

要 約

保健所業務の中で、学校保健との連携が重要な課題となっている。特に健全な人格形成のためには、思春期における子供の教育は重要かつ不可欠である。

このため、当保健所では数年前から学校保健と連携し、親を対象とした思春期保健講座を実施してきた。また若年時における喫煙が身体に及ぼす影響や、将来の喫煙行動に大きな影響を及ぼすこと等から、喫煙予防教育を実施しているので報告する。

見出し語 思春期、喫煙予防教育、学校保健との連携

I. 研究方法

1 思春期保健講座の開催

1) 対象 小学生をもつ親

2) 講座内容

第1課

映画「こどもたちへ」

講義「今こどもたちは……パートⅠ」

庄内児童相談所 次長

第2課

講義「今こどもたちは……パートⅡ」

小学校 養護教諭

話し合い(グループ)

講義「さわやか性教育」

保健所 保健婦

3) 参加人数 所内37人 所外68人

4) 学校保健との連携

①庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会、
三川町教育委員会の関係者との打ち合わせ

★管内の各小学校長、PTA会長あて依頼の
文書を送付してほしい。

★所内のコースについては、近隣の小学校へ
別にお願いにいってほしい。

★庄内地区の養護教諭の研修会の時に説明し
てほしいと希望があり実施した。

★町内に3校あるが、年次計画で各学校に入
ってほしい。

②学校(校長、教頭、養護教諭)との打ち合
わせ

★学校にはPTA研修や視察等がある。
父兄も忙しいと思うが協力はする。

★4年生以上の父兄に案内を配布する。

★PTAの事業と共催にしてほしい。

★講座の名称を参加したいような名称 かえ
てほしいとの希望があり、「おとなへの旅
立ち講座」とした。

*山形県鶴岡保健所

2 喫煙予防教育の実施

- 1) 対象 A中学校で同じ生徒を対象に3年間実施した。
 - 2) 教育の内容
 - ・ビデオ 「となりのたばこ」
 - ・クイズ 「クイズで知るたばこの教室」1時間の授業で1クラス単位に保健婦が実施した。
 - 3) 意識調査(生徒と教師)
 - 4) 参加人員 生徒 224人
 - 5) 学校保健との連携
- ①庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会の関係者との打ち合わせ
- ★毎年12月には来年度計画が決定する。
 - ★長期的な計画を立ててほしい。
 - ★学校のカリキュラムの中に今後、取り上げていかなければならないと思うが、現実ではなかなか難しい。
 - ★話しも良いが、視覚に訴えるもの等は、生徒の興味を引き、強く印象に残るのではないか。
 - ★校長会、養護教諭の研修会でPRをしたい。
- ②A中学校(保健指導主事、養護教諭)との打ち合わせ
- ★50分授業で道徳の時間を利用するが、少し早めに終了してほしい。
 - ★クラス単位で実施する。
 - ★前年度のアンケート結果の説明は必要ない。
 - ★ビデオの内容は、具体的な体への影響がわかる映像を映して欲しい。
 - ★各担任だけでなく校長、教頭、保健指導主事、養護教諭等一緒に参加したい。

II. 結果

1 思春期保健講座について

1) 話し合いの中から

- ★テレビでのキスシーン等を子供と一緒にみたとき、どう対応したらよいか。
- ★最近ドライヤーなど使いおしゃれになった。
- ★父親になついていた娘が、一時父親に口をきかなくなったり、反抗的になったが、最近、少し良くなった。
- ★4年生の男の子と母親が入浴した時、生理になった。どう対応したらよいか
- ★母の生理の日をおしめの日と教えている。
- ★6年の男の子、今も母と入浴している。まちがってオチンチンに触れたら、怒った。
- ★今の子供…自分が小さいときに比べて、親に性のことをよく話すようだ。
- ★学校で勉強してきたことをきっかけに家でも話すので良いと思う。
- ★子供は高校の男の子と小学6年の女の子がいるが、家族だんらんの時、性に関する話もわりとオープンにする。…自然に勉強になっているようだ。
- ★子供むけの性描写のあるマンガをみているようだが、どう対応したらよいか
- ★4年生の工場見学の時、ナプキンをもたらしてきた。この時子供に性教育をするきっかけになった。
- ★6年生のクラスで、親にかわいがられているかと言う質問に対して、「はい」と答えた子供は30人中3人だけだった。「いいえ」と答えた子供の理由は、「叱られる」、「注意される」などが多かった。このことが家庭で話題になった。

★子供達のことをみていると、疑問に思うことがある。子供達が集まった時に雨が降っていたが、傘も貸さずに帰したようだ。何故かとたずねると自分たちも以前に、同じように雨が降ったが傘を貸してもらえなかったからだと答えた。

2 喫煙予防教育について

1) 意識調査結果

①生徒の喫煙経験及び喫煙年令(表1)

生徒の喫煙経験者は、1年の時11人(4.9%)だったが3年になると25人(11.7%)と高学年になるほど増えている。初めて、たばこを吸った年令をみると25人中、11人(44.0%)が小学生の時であった。その動機で最も多いのは好奇心からが16人であった。

②将来の喫煙傾向(図1、2)

将来たばこを吸ってみたいかという質問では、「吸ってみたい」と答えた生徒は、男子では1年の時7.0%で、3年では14.6%と約2倍になった。

一方、女子の1年から3年までは大きな変化は見られない。

「どちらともいえない」と答えた生徒は男子が33.0%、女子は20.7%であった。

③生徒の感想及び意見

★先進国でたばこのCMをしているのは日本だけだ。

★たばこで病気を買っているようだ。

★たばこ税を10%ぐらいにしたほうがいい。

★たばこを作らないでほしい。

★たばこは恐ろしいので、吸っている人へは近寄らない。

表1 喫煙経験と喫煙年令

| 学年 | 調査数 | 喫煙経験あり | | | 率 |
|----|-----|--------|---|----|------|
| | | 男 | 女 | 計 | |
| 1年 | 224 | 8 | 3 | 11 | 4.9 |
| 2年 | 200 | 13 | 6 | 19 | 9.5 |
| 3年 | 214 | 20 | 5 | 25 | 11.7 |

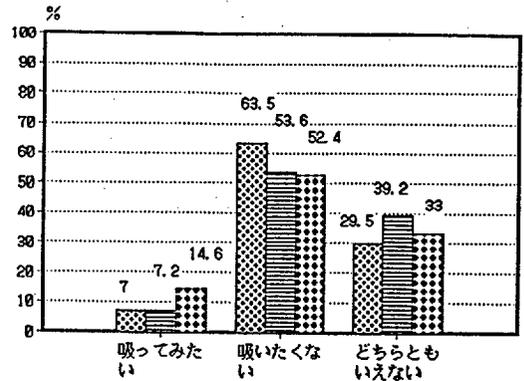


図1 将来の喫煙傾向(男子)

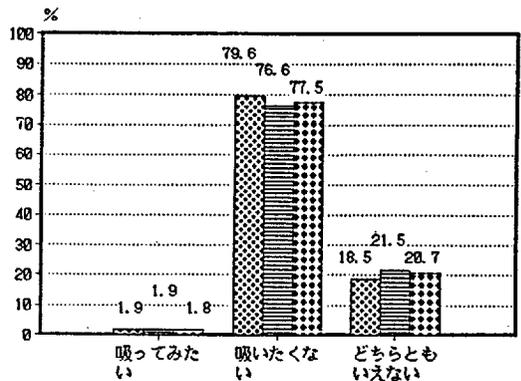


図2 将来の喫煙傾向(女子)



- ★法律で禁止してほしい。
- ★たばこは絶対に一生吸いたくない。
- ★たばこは吸う人に責任がある。
- ★家の中のどこでも吸っているが場所を決めて、吸ってほしい。
- ★父がたばこを吸っているの、家族で話し合ったりした。
- ★世の中からたばこをなくしてほしい。
- ★親が見本を示してほしい。
- ★今吸っている人は健康に悪いのでやめてもらいたい。
- ★たばこは麻薬と同じだ。
- ★生徒に教える前に先生がやめてほしい。
- ★たばこの生産量を減らせば良い。
- ★何故、あんな臭いものを吸っているのかわからない。
- ★禁煙パイプを増やせば良い。

④ 家族の喫煙状況

家族で吸う人は元年度156人(69.6%)
3年度164人(76.6%)でその中でも兄や姉が増えている。

⑤ 教師の喫煙状況

現在吸っている人は、30人中6人(20.0%)で、その内5人(83.3%)が今後やめたいと考えている。

Ⅲ. 考察

- ① 学校保健との連携は難しいと言われている中で、教育委員会、学校等の理解と積極的な協力が得られ、思春期保健講座は5年間喫煙予防教育は3年間実施することができた。
- ② 思春期保健講座は小学校だけでなく、中学、高等学校のPTAからも要望があり、

波及効果をみせている。

- ③ 思春期保健講座、喫煙予防教育で学校保健との連携がきっかけになり、乳幼児期から学童まで一環した肥満の保健指導ができるようになった。
- ④ 喫煙予防教育を機会に喫煙を考える教職員や父兄を対象に協議会を開催し、普及に努めた。その結果、中学校や高等学校の文化祭や保健の授業で、喫煙予防をテーマとして取り入れるなど関心が高まった。
- ⑤ 思春期保健講座と喫煙予防教育を通じ、児童、生徒、教職員、父兄が話し合う機会となり、思春期の子供を育てる姿勢を考える場となった。

Ⅳ. まとめ

この事業を通して、思春期の子供が自分自身の健康を育み、他人の健康をも、大切にする健康教育の場としては有効であったと思われる。

今後、学校保健と連携をさらに強化し、人間教育の一つの場として、思春期保健講座、喫煙予防教育を継続する必要がある。

参考文献

1. さわやか性教育 村瀬幸浩：新日本出版社
2. みんなで取組む性教育 岡多恵子他：健康双書
子どものからだは触まれている
正木健雄編：柏樹社
ばこを吸い始めないために 中村正和他
：ばすてる書房
5. 中高生の喫煙：国立公衆衛生院
(箕輪、尾崎、木村)
6. 喫煙と健康に関する指導方法の確率とその効果に関する研究：63年度厚生科学特別研究事業



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

保健所業務の中で、学校保健との連携が重要な課題となっている。特に健全な人格形成のためには、思春期における子供の教育は重要かつ不可欠である。

このため、当保健所では数年前から学校保健と連携し、親を対象とした思春期保健講座を実施してきた。また若年時における喫煙が身体に及ぼす影響や、将来の喫煙行動に大きな影響を及ぼすこと等から、喫煙予防教育を実施しているので報告する。